



とうせい歯科医院

〒399-4117 駒ヶ根市赤穂小町屋10737-1

TEL. 0265-83-0888

E-mail thousei@avis.ne.jp <http://www.mcci.or.jp/www/thousei/>

歯科治療の経年変化について、(2)

では、再治療しても無駄かと言って、放置すれば、歯並びや咬み合わせが問題を起こし、将来その付けを払う形で、大変な時間と莫大な治療費の掛かる矯正歯科治療をする事に成るかも知れません。毎日24時間、一年365日、常にお世話になる自分のお口の中の「歯」は、過酷な条件下に有るのです。

虫歯の程度がカリエス度3度(歯の中の神経まで虫歯が進行)となりますと、最低で、3回以上(歯の部位により根の中の神経の本数が変わる)掛かる場合が多く、更には、根の中の治療後に齶窩(虫歯の穴)の充填処置や歯に被せる治療が有り、4回以上~7回8回くらい掛かります。その後、数年~10年くらいは、その状態で使用して、虫歯予防もして行く事に成りますが、やはり半永久的に持たせるという事は出来ません。治療後の充填物との境目や被せた人工物の歯肉との境目などから隙間ができて、そこから又カリエス(虫歯)ができるのです。場合によっては、失活歯(歯の神経を除去した歯)は経年変化後に脆くなり、歯根破折(歯の根にヒビワレ、歯根が縦に割れる)の結果、抜歯と成る事が有ります。

虫歯治療を繰り返して行く事で、いつでも自身の歯が、再度元に戻るという事ではありません。食事をする、話ができる、噛み合わせのバランスを取ると言う機能回復は出来る事でしょうが、治療した部分や出来上がった歯の人工部分は、元の自分自身の物とは違うのです。人間の歯牙を研究する歯牙解剖学と言う分野が有りますが、知れば知るほどに、神様が(?)よく考えて作ってくれた(出来ている)んだな~。と、つくづく思います。しかし、この歯も酸(虫歯菌の作る酸や、人工的な酸性食品)には弱く溶けてしまうと言う欠点を持っているのです。

患者さんが願うように、我々歯科医療人も出来るだけ治療した箇所は長く持って欲しいと願います。出来れば治療したら永久に持つように出来ないものか?と考へたりしますが、世の中のものを見渡した時に、物であれ生物であれ、変化しないもの、永久的に変わらないものが有るでしょうか? 恒久の歴史の中でも世界的遺産と言えども形を留めることはできません。

では、どうしたら良いのでしょうか? 「諦めるしかないのでしょうか?」と言われた女性の方がいましたが、「諦めたら何でもダメですよ!」と、お伝えしました。それは、出来るだけ長く健康に暮らすためにも、失ったら二度と手に入らないご自身のお口の環境と健康を維持しながら使い続ける事が今後の人生でとても大切だからです。(つづく)